

SOUL OF KOMAZAWA
FORZA 駒澤 Vol. 23
 〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1 2002. 4. 26
 駒澤大学マスコミ研究所内「駒人スポーツ」サッカー班
 Eメール forzakomazawa@hotmail.com
 TEL・FAX 03(3418)9556 発行人 熊崎雅之

Best Position Football
 秋田浩一監督が常に目指しているサッカー。次のプレーの予測をし、それぞれが素早くベストなポジションをとる(準備)ことでスピーディーでシンプルな攻撃を実現できる。



(上) 14分、先制点を挙げ巻の祝福を受ける松田。この主将の一撃でチームは勢いに乗った(左) 2得点と結果を残した巻。この日は得点シーン以外でも、あらゆる場面に顔を出し攻撃を活性化。そのプレーからは「気持ち」が伝わってきた(岩田陽一撮影)

きっかけの大勝

4月21日 14:30 西が丘サッカー場	
駒大 5 (4-0) 1 青学大 (4位、3、+3)	1 (7位、1、-4)
【駒】 14分: 松田大輔(アシスト=中後雅喜)、19分: 巻誠一郎、30分: 巻誠一郎(PK)、39分: 増富真也、58分: 橋本早十(増富真也)	
【青】 75分: 北村隆二(PK)	
KOMAZAWA	AOYAMAGAKUIN
GK◎牧野利昭(1)	GK◎田中淳一(1)
DF◎小林亮(2)	DF◎三角健太(2)
DF◎松田大輔(4)	(46分◎川邊淳(3))
DF◎鈴木祐輔(2)	DF◎川田尚弘(4)
DF◎桑原靖(1)	DF◎依田俊輔(2)
MF◎中後雅喜(2)	DF◎山巻大輔(3)
MF◎橋本早十(3)	MF◎駒形嘉則(3)
(80分◎角屋博文(4))	(73分◎塩澤昂(2))
MF◎中田洋介(3)	MF◎小谷春晃(4)
MF◎増富真也(4)	MF◎大関欽也(4)
(88分◎大瀬良直人(2))	MF◎北村隆二(4)
FW◎深井正樹(4)	FW◎清水健(3)
FW◎巻誠一郎(4)	(38分◎佐藤陽介(2))
(71分◎赤嶺真吾(1))	FW◎吉井稔貴(3)
S U B	S U B
GK◎中地紹(3)	GK◎中西功(3)
DF◎河合雄介(4)	DF◎米山洋史(4)
DF◎松村竜祐(1)	MF◎対馬浩之(1)
FW◎関光博(2)	FW◎是永哲平(3)
MANAGER	MANAGER
秋田浩一	上倉功
警告(C)/退場(S)	
【駒】 23分: 増富真也(C)、89分: 松田大輔(2)(C)	
【青】 28分: 小谷春晃(C)、46分: 北村隆二(C)、55分: 川邊淳(C)、69分: 川邊淳(CS)	
<シュート>24:11<枠内シュート>12:4	
<決定機>10:4<GK>8:14<CK>10:2	
<PK>1:1<直接FK>13:24<間接FK>2:7	
<OS>2:7<主審>前之園晴廣<観衆>約350人	
※上記データは全て左側の数字が駒澤、枠内シュート、決定機は本誌記者による記録です	

CLOSE UP!

新人桑原、合格

前節の牧野、松村、赤嶺に続き、この日も新たに一人の1年生がデビューした。DFの桑原靖(清水商業高出身)だ。ポジションは新チームの「泣き所」、右サイドバック。本来はセンターバックであるが、彼はデビュー戦とは思えないプレーを披露した。特筆すべきプレーは19分。体を張ったプレーで青学の攻撃をはね返すと、そのボールがダイレクトで巻へとつながりゴールにつながった。勝負どころをおさえたディフェンスは彼のクレバ一さを感じさせた。スタメンの感想は「緊張よりも楽しかった」。高校時代、日本一に輝いた実績を持つ彼は肝も据わっている。新チームの右サイドバックとトップ下はまだまだ実験段階。サイドバックとしては攻撃面で多少物足りなさを感じさせたが、おおいにアピールしたことは間違いない。とりあえずは「合格」といったところか。(熊崎)

★基本フォーメーション★

だがこの勝利でリーグ制覇へ向かうきっかけはつかんだはずである。今節は「優勝候補」の筑波大、国士大が引き分けた。可能性は十分に、ある。(ED)

理想的なサッカーで青学を圧倒

開幕戦では、随所に期待を抱かせるプレーを見せながらも経験の浅さゆえに黒星スタートとなった駒大。新チームを勢いに乗せ、悲願であるリーグ制覇を達成するためにも、この一戦の持つ意味は重要だった。「絶対負けられない!」選手全員が、試合開始直後から積極的な攻撃となつて表れる。2分、負傷の癒えた深井のシュートをゴールポストをかすめると、これを皮切りに幾度となく青学ゴールを脅かした。先制点は14分。中後の右コーナーキックに松田が左足で合わせる。たので積極的にいった」という巻のミドルがゴールに突き刺さり追加点をあげる。30分には深井の突破で得たPKを「去年外しているし、自分の取ったPKは入らないから(笑)」(深井)というところで巻が決め3点差。9分には今季初発の増富が巻の競ったこぼれ球に2列目から反応し、GKの動きをよく見て冷静に決めた。後半に入り59分にも鮮やかなカウントリから最後は橋本が決め、結局5-1と大勝した。「前線からプレスをかけること

で高い位置から攻撃に移ることが出来た(松田)というように、この日の駒大は Best Position Football(※上部枠内に説明)に限りなく近いサッカーが出来ていた。とはいえずは1失点を喫したことは反省すべき点である。大量得点をしていくからこそ無失点でおさえなくてはならなかった。だがこの勝利でリーグ制覇へ向かうきっかけはつかんだはずである。今節は「優勝候補」の筑波大、国士大が引き分けた。可能性は十分に、ある。(ED)

エース深井は完全復活。得点こそなかったが、PKを誘うドリブル突破など持ち味を發揮した

